## 共創の場形成支援プログラム【地域共創分野】

# 拠点名称:"健歩快働"をまちごと科学するイノベーティブ新湘南共創拠点





代表機関	横浜国立大学	プロジェクトリーダー	下野 誠通 横浜国立大学 学長補佐(医工連携担当)、総合学術高等 研究院次世代ヘルステクノロジー研究センター・センター長、工学
			研究院・准教授
幹事自治体	神奈川県	幹事機関	横浜市立大学 アイパークインスティチュート株式会社、医療法人徳洲会湘南鎌 倉総合病院
参画機関	神奈川県立保健福祉大学、慶應義塾大学、東北大学、神奈川県立産業技術総合研究所 シャープ株式会社、シチズン時計株式会社、コニカミノルタ株式会社、UNTRACKED株式会社、株式会社ワコム、株式会社アイネット、湘 南ロボケアセンター株式会社、CYBERDYNE株式会社、シミックホールディングス株式会社、特定非営利活動法人地域健康プラン、株式会 社ケイエスピー、株式会社横浜銀行、株式会社NERV、藤沢市、鎌倉市		

# プロジェクトの概要

市民の健康課題と将来のまちづくりの声を受け、寝た きり・歩行困難の3大要因を対象に"日常生活中の 人の行為・動作"(ADL: Activities of Daily Living)データに着眼した独創的なヘルスケア技術 の研究開発を行う。これにより、高齢者になっても健や かに歩くことができ、快活に働き続けることができると いうコンセプト「健歩快働」を実現する。このため、横 浜国立大学は新湘南共創キャンパスを創設し、住民 の生活空間での実践型教育研究が可能な実証フィ ールドを整備する。産学公医民の多様な関係者との 連携・共創で、フィールドを活用した研究開発・地域 人材育成・ベンチャー創出・社会実装等を展開し、新 湘南に新たなイノベーション・エコシステムを形成する。

# 【社会課題】

### 【地域課題】 超高齢化の進展 高齢者の著しい増加 乏しい医療・介護資源



要介護リスクの評価・予防・改善を 実現する新ヘルスケア技術の必要性

### 高齢化に伴う要介護リスク (歩行困難・寝たきり)

## 要介護の3大要因

- ① 転倒・フレイル
- ② 認知症
- ③ 脳血管疾患













実践的な教育プログラムとして開始

湘南アイパーク、NERV等との連携で アントレプレナー・コーディネータを育成

本拠点活動とアウトプット

実証フィールドを利活用した

市民参加型の産学公医連携活動

市民対話・リビングラボ・実証実験

シンポジウム・教育講座

工学、情報学、都市科学、社会科学、教

育学の本学の強みと、医系他大学等の 強みを結集し地域の「知の統合」を実現

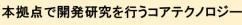
企業群にフィールド価値を提供し、市民 生活の中の行為・動作に関わる新たな ヘルスケアデータ技術を創発



湘南アイパーク等と連携し、ディープテッ クベンチャーの起業環境を構築

ケイエスピー、横浜銀行等と連携し、地 域のベンチャー支援ファンド組成

大学発ベンチャー起業、企業誘致の実現



湘南鎌倉総合病院等

地域連携による

第一段階(育成型







歩行、起居、昇降、書画、排泄、服薬、スポーツなど

日常生活行為(ADL)データによるヘルスケア診断

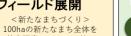
新しいまちづくりと連動した実証フィールド展開

例)老人保健施設、保育施設、

高齢者住宅、スポーツ施設









教育研究のフィールドに

第三段階(達成目標

附属小中を中心にSTEAM教育を展開